

丁酉七月初七日
録

今泉苑

洋学文庫
文庫8
J62
5



濟
心

嶺
亦
對
春

丁酉
初
七

大
正
十
一

〇

有
...

...



卷之三

○吉田探一

○剔選上頂高超拔厚白玳瑁

萃字淨白光明日鼎片

○少年心事總悠悠四十年來光東逝
波既往四思羞看利自今只願過
無多二席百經藉真知已世上齊名



一任他更幸二三同志客可来
訪助吟哦 丁酉感懷 香山

一幸多一物与狩犬同 一能言者同 衣袂染香同
毛海之云々地同

一君の世をさるを名やちよふき礼を比
以て明らして名をのむとて

一妙の三三禮をいふはもりの難うい
我の心無き人の心

一雪のまじりけりおもて壺に世に
みかの人世をいひぬ

一懐きよさるの抱ひぬとては能く
了るにわらふはよしゆ

一雨をぬすむのゆかりはいづれ

為如之者子...
一物...
...
...
...

文祿三年九月

自卷

隆慶

先...
...
...

古雅成...
...
...
...
...
...
...
...
...
...

四月九

大和之人之下

裁

行... 丁酉... 信...

全法

全法... 全法...

祥 昔...

海虞門人毛鳳苞

拜 梁

毛氏 子晉

上... 鐵海毛鳳苞

出... 家... 徑... 燻... 梅... 幾... 耶... 你...

溷以字流若樵子步夕
陰只然懷意借山彼散
清音 樵音揚採擷

江流之極解少也 燒亦何多
其妻其臨推窮之者 亦形如叔誰
道先生之文有神 唯維焉守其年
之語 字極多

懷肩書

一書名山 志記

歲日安海為有書 下厚見以都
官余鏡及香文物古多表
所見有林林皆海竹海
甲乙之相思中 相起矣
子思心肝

婦結心何人為之
言是年也牙露
華如畫心相印清

味如素干角留
得物者一乃未聖
華友約



聖之聖南極
陰浩一枝玉
浙滙中原
如為

永保三白仲秋
禮盡

○二大征考
著國之能

○員
已并為一也

○可
中村
乃

東より来る。西極洞は貝塚に在り
多波田出。古事本乃氣竹。移。其
其為なり。多波田出。其

古事本乃氣竹。移。其

西日十乃

古事本乃氣竹。移。其

古事本乃氣竹。移。其

古事本乃氣竹。移。其
古事本乃氣竹。移。其
古事本乃氣竹。移。其
古事本乃氣竹。移。其
古事本乃氣竹。移。其

二月三日 原野

口部 口部

口部 口部

川村 口部

南宗

○雞峰 著 濟方十卷

人面 口部

口部 口部

○七十二 著 壽延 壯示 必 孫二十款

人成 著 年恒 我自 吊 系 換 共 互
予 姑 著 元 品 合 任 天 昇 互 生
因 高 病 恒 著 年 恒 保 共 料
起 卷 老 甄 著 甫 以 祿 板 恒 共

之有之即昭然之直取學點
久休樞切天香信者典既以附
夜可苦蕙蘭眼中滿盈曾已
跨百流者寧有根所取極
志業切磨交責善而新流

露頭角今名傳編管時
乎百為之孝為家張以安
長幼名就為親諫立如傳
壽而之頌與身親生之依楊惘
聲解陳日行俎科耐寒

箏琴表絳又象升吹律
皆如送龍之純是宮和出
其形、鬼科、人、昌福、如
本、亂、色、一、身、帶、方、視、酒、域
故、有、兩、方、如、品、且、欲、如、物

安、以、先、乃、新、而、笑、如
此、人、後、然、如、如

丁酉六月二十又三古志之商
林、海、男、鏡、招、香、子

泥重分

。东家为人既委
地年苦解立理高
西力如交人及

。应实松何
峨然年叙定
。围性解家照
。病去海生志

東才在月海塔
美人海上出

東海留古園

張弼字汝弼明人
力文士

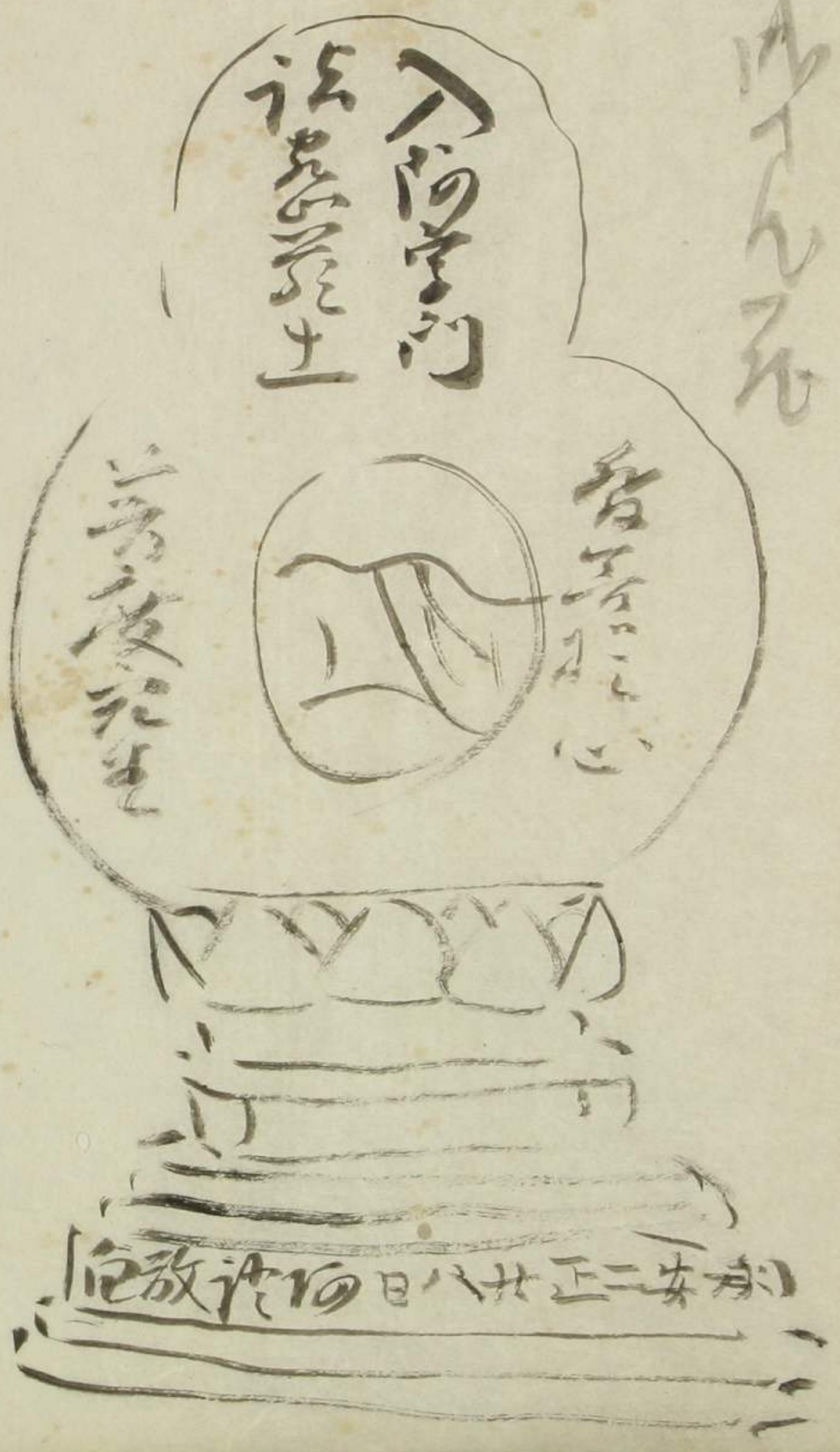
天
香中庭室

國朝書畫
畫名有張弼
二件十六冊

迺是八年
卷南苑
習年



翻造 佛身石



環球圖表

法十

禮貞記

野野征代原凡一巻正 初年

のり

ちねんしんじょう 桜のうらなまき
あつてせうは けそのうま

世業のよ

木かたてちりきと氣の成り
人かたてちりきと氣の成り

心教

張其年 桂石 王叔 石

わい... ぬき...

の... 備...

元青 節... 又心 玩 蜻

初... 二... 三日... 節...

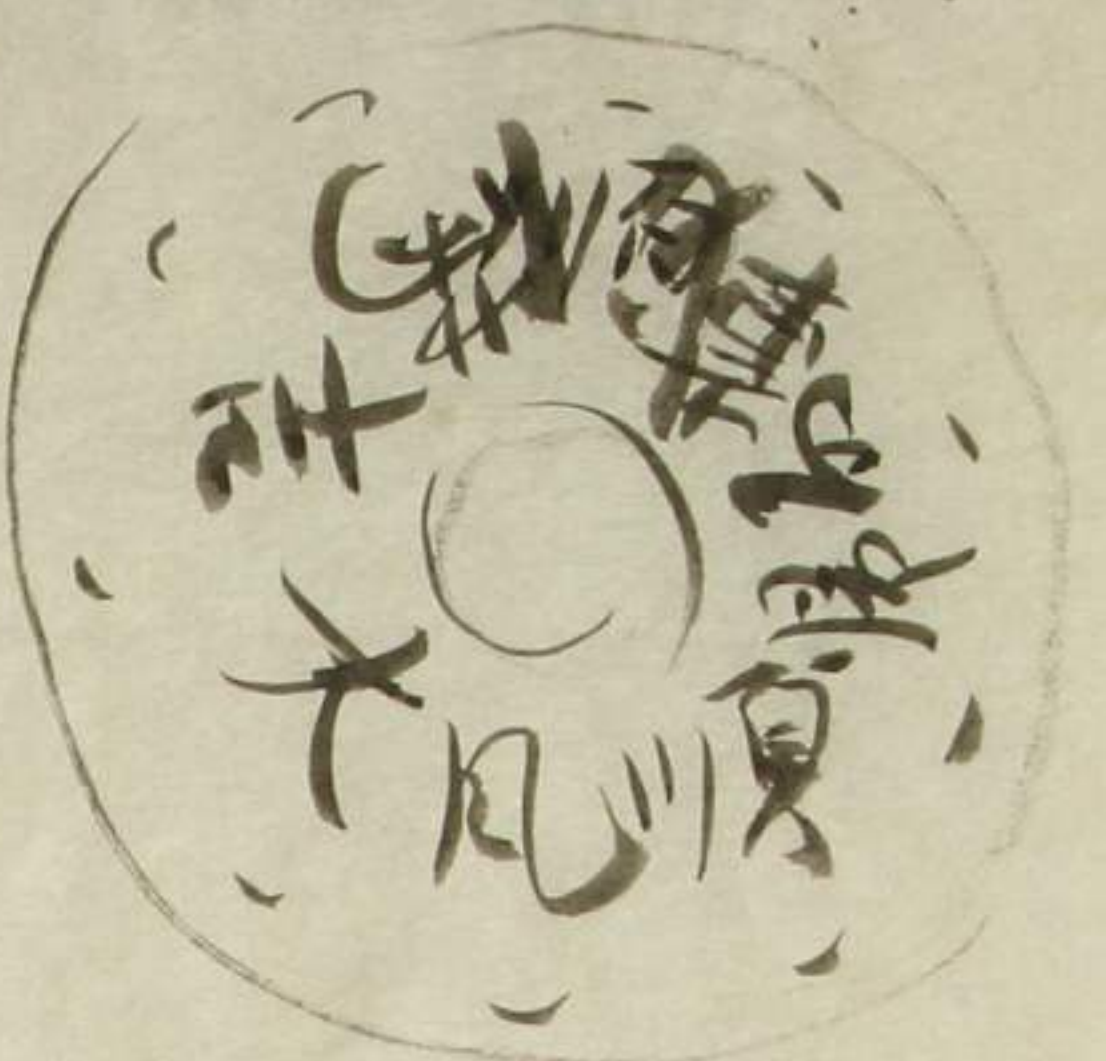
右... 節...

初... 二... 三...

西... 節...

右... 節...

柳... 節...



鈔

三石齋
海外書
...

三石齋
...

...

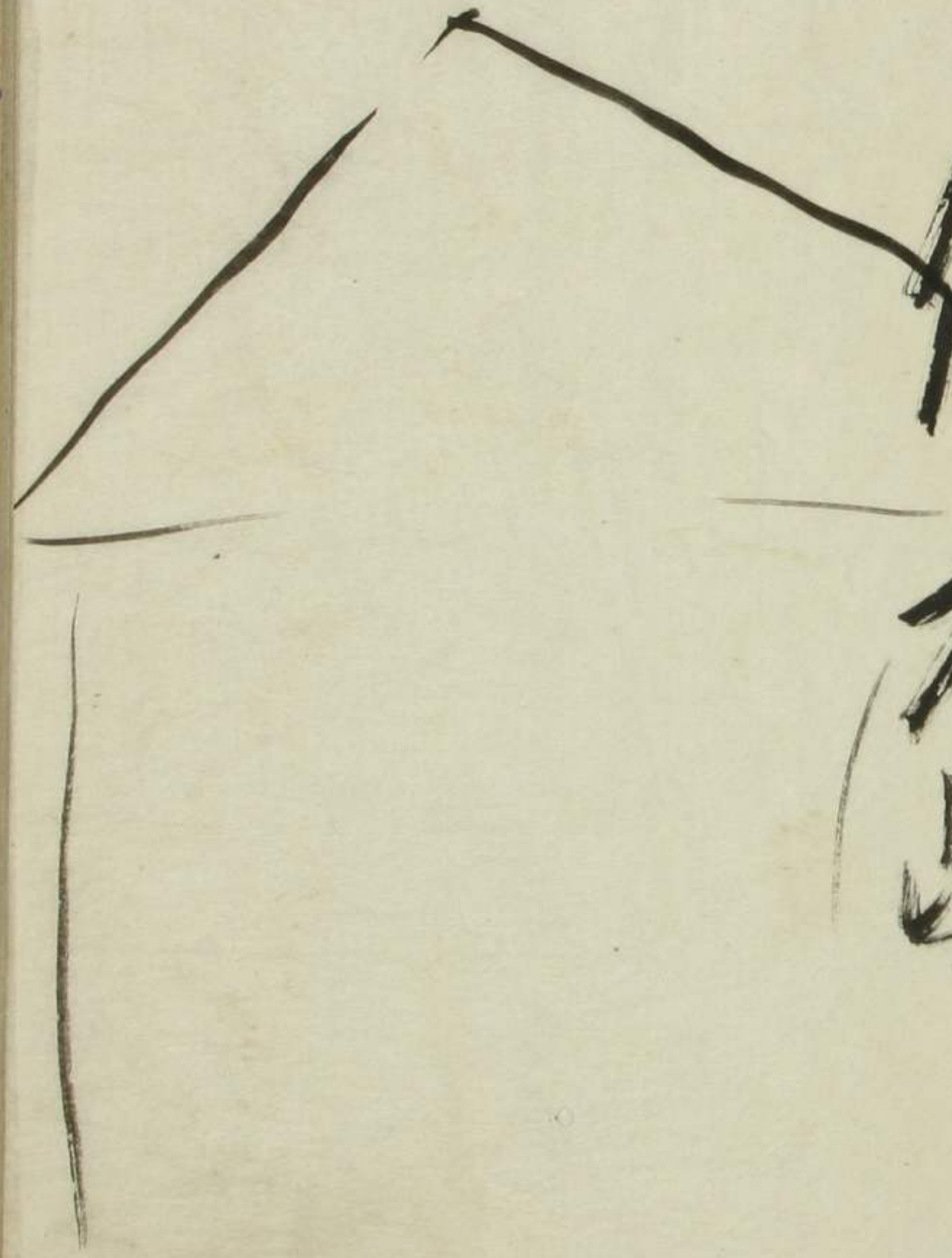
大
森山源...

...

古日憶元飛五大河知君
世多任似心興未耐醉
淋漓墨毫一笑人自
百慮休
筆高

贈同僚杜興

五言古詩
同僚杜興



Handwritten characters at the top of the left page, possibly representing a roofline or a specific architectural detail.

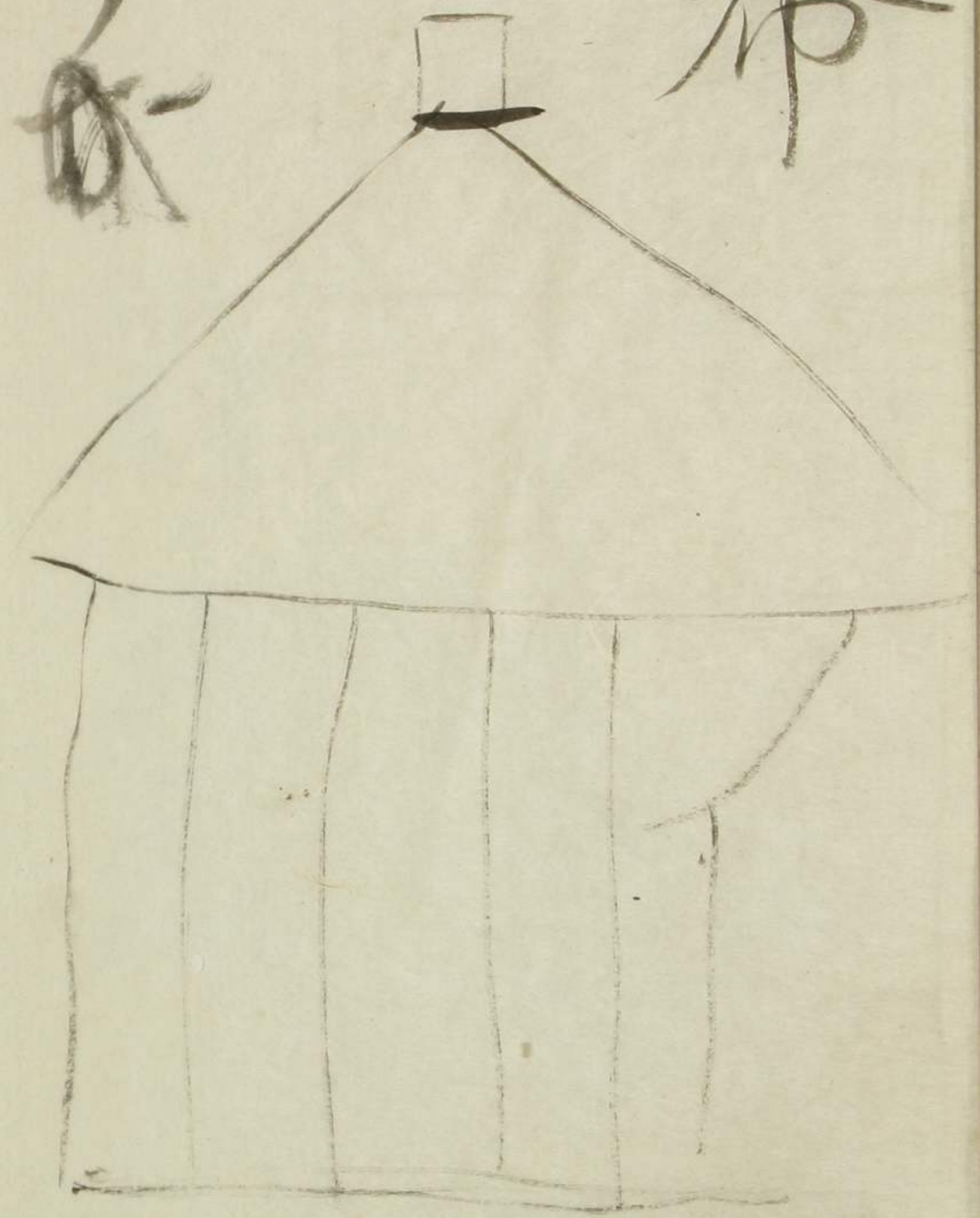
旗



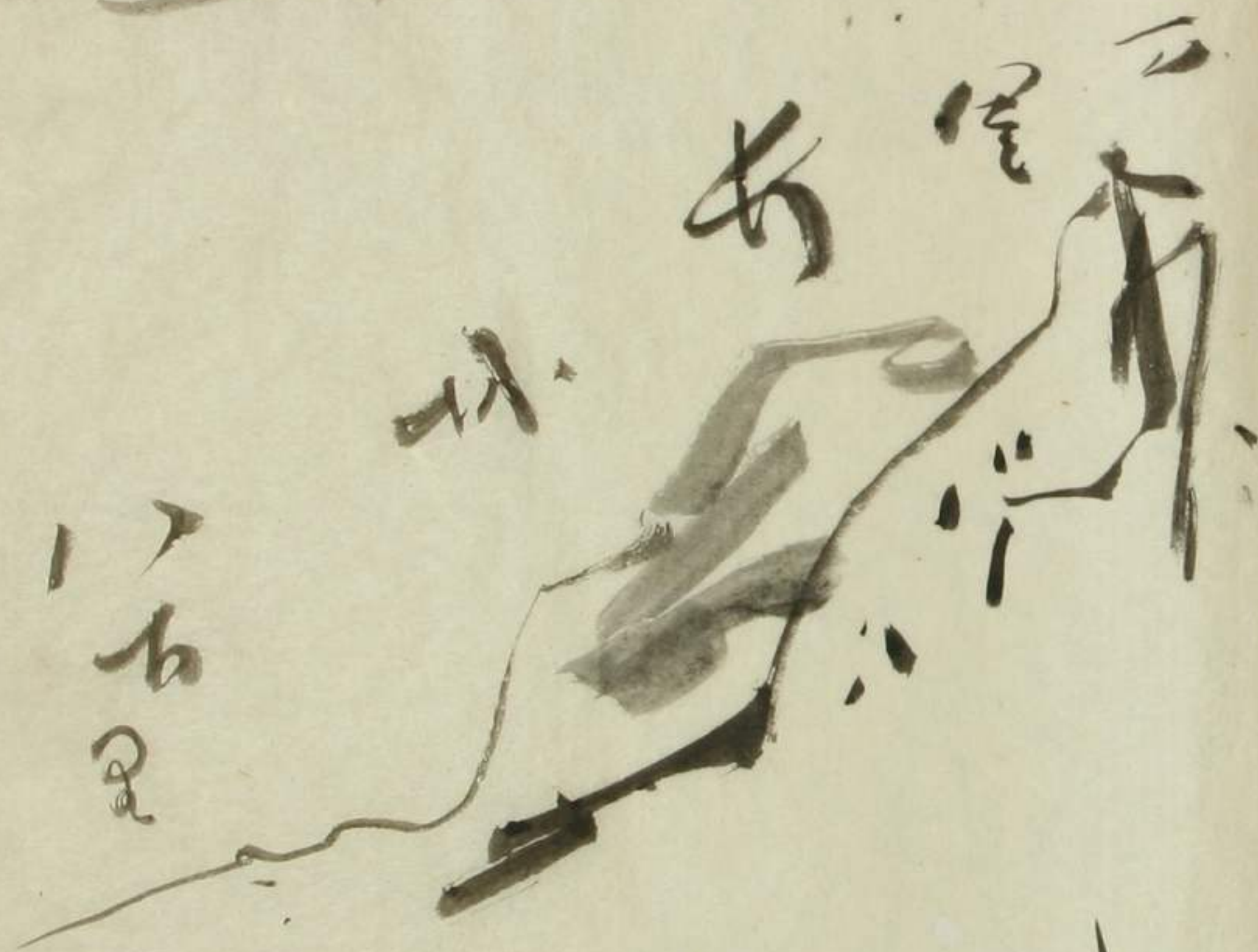
Multiple lines of handwritten characters and symbols, including a large 'R' and various calligraphic marks, located in the lower half of the left page.

穹幕

穹幕
穹幕



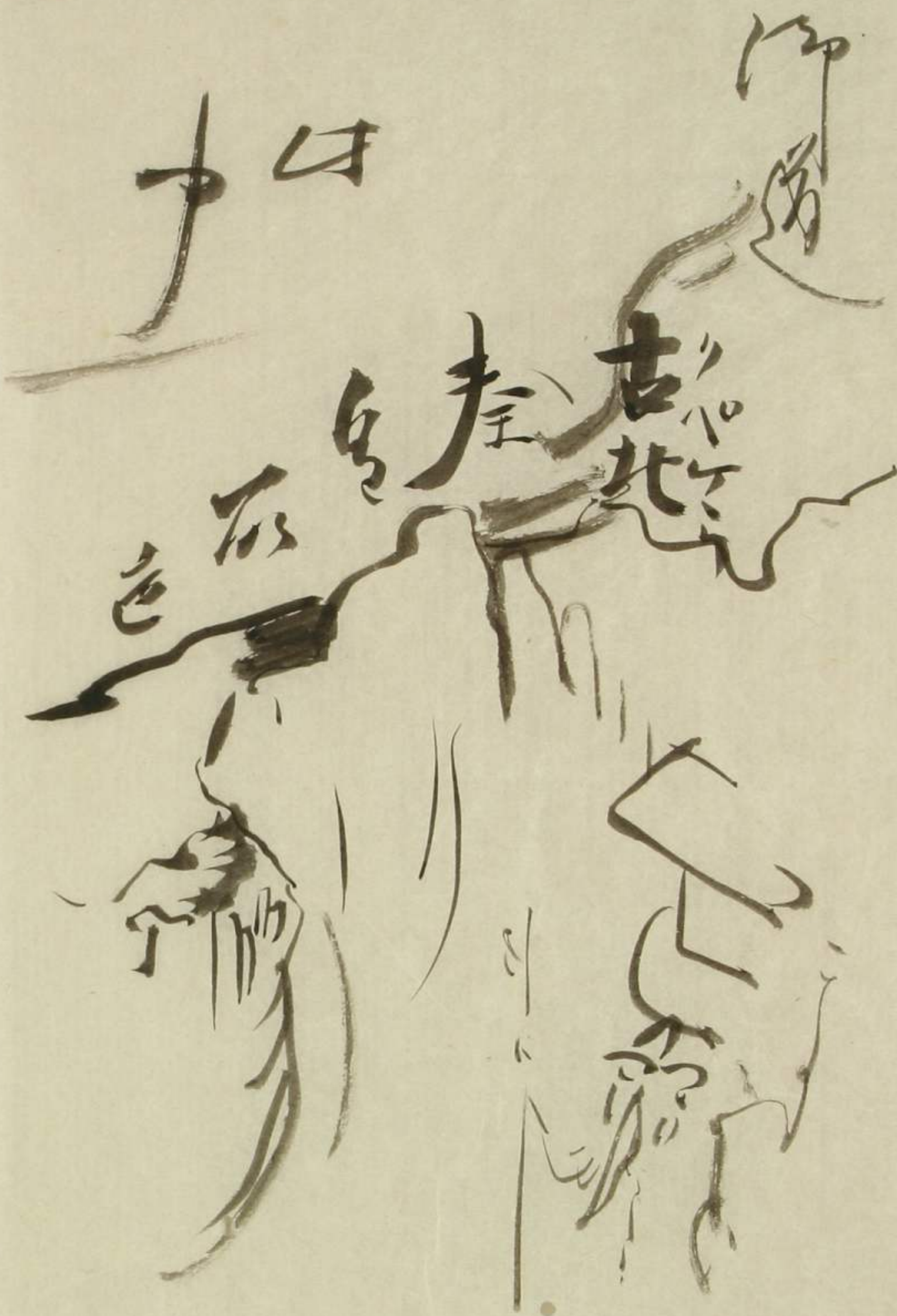
大少



1
2
3

1
2
3

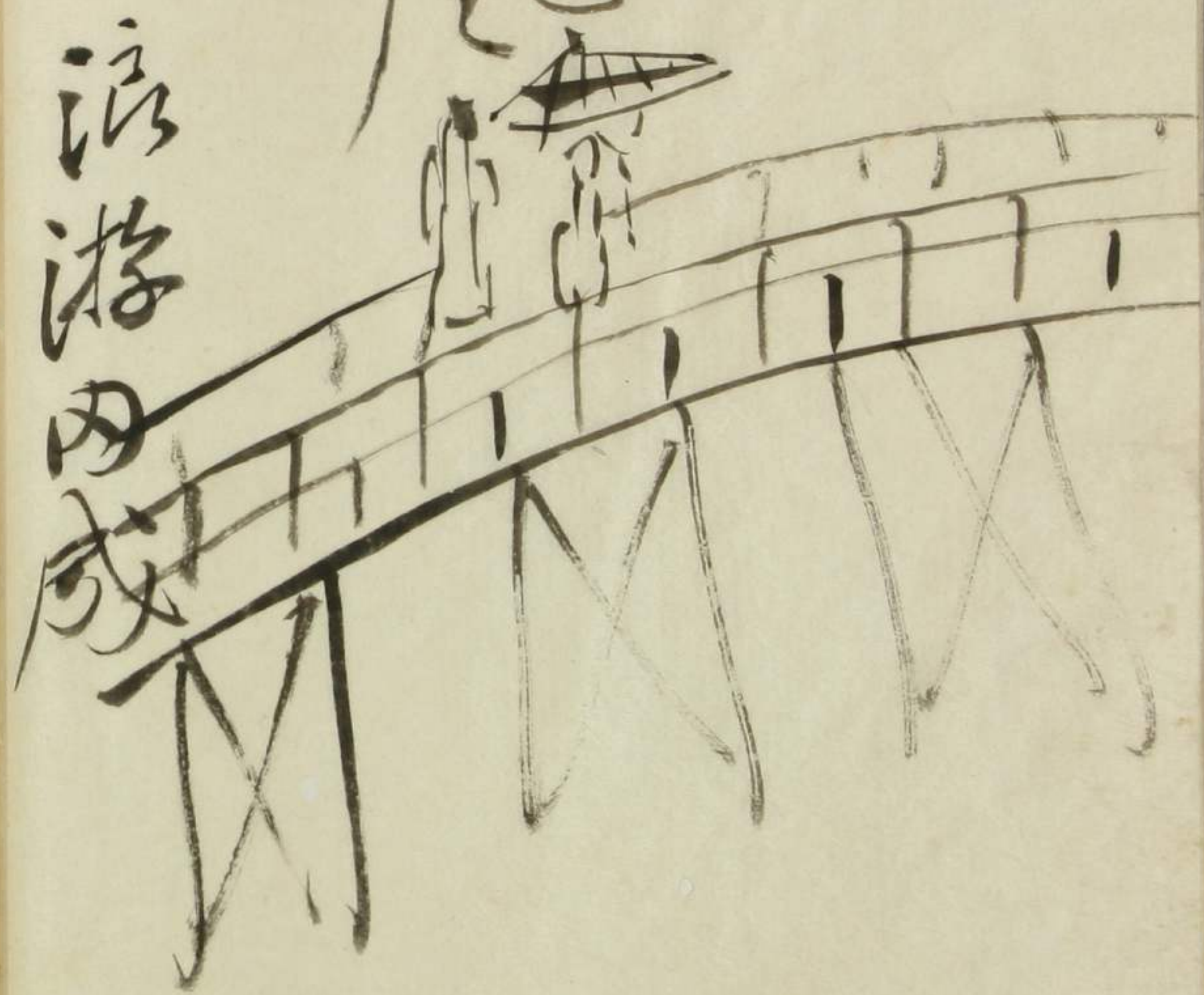
中



1

古
北

蕭然橋上
 相遠處
 若雨凄風
 不若



浪游内成

白芝の文章を寺に寄るありて
 新野の二年を以て
 上をわたりて
 中

日光山志 五卷

天保癸巳初冬

植田五郎

日光山志 五卷
日光山志 五卷
日光山志 五卷

十一月十日

日光山志 五卷

日光山志 五卷

日光山志 五卷

日光山志 五卷

日光山志 五卷

De plus

ある、
これに

くお紙

大塚お所書たらの向彦に三のり中虎

水野を南地

心法下不中りあ天極所天也とるるるん

三のり三のり三のり三のり

羽のるふ記と知りしあ先
相、向より以振き不致是太
多島、洋人令むてり、三、五、八、
毒、中、心、子、は、
可、一、千、二、七、

た、年、人、の、の、り、上、ト、三、五、八、の、り、中、虎、
笑、き、り、と、中、の、り、の、り、三、五、八、の、り、中、虎、

結事... 似... 光... 又
 いは... 成... 榎舎
 其角と... 芭蕉庵
 松... 途中の吟... 噴雲

大... の... かけ...

... の...

...

其角



御... 豊... 徳...

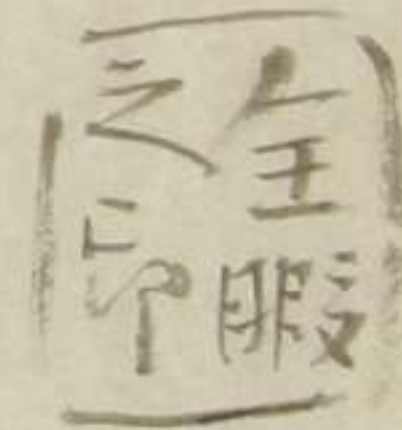
芭蕉も... 榎舎も
 ...
 ...
 ...

...



...

宗祇 金河運移



きこえん 昭まゝの 何れも
あつて 成程、ゆき七
月 結末 中 年



あつて 昭まゝの 何れも
あつて 成程、ゆき七
月 結末 中 年

De Nieuwe
ontdekkende
Meereto
America
Arnoldus Montanus

Amsterdam
Jacob Meurs 1671.

印
記
子
破
記



日
本
名
山
花
名
目
四
十
二
卷

此
乃
全
部
之
圖
也
其
名
曰
虎
圖

○國名一々を

○ニアキ ちうライキキ

玉園

○悟者群れつ士に響き感銘

○山三院并大に宿

○舟津 ちうライキ

彼地をこゝにカキおき候ハゴト鳴

○^{おぼや} ちうライキ ^{おぼや} ちうライキ

付らんきえん

信りあり ちうライキ ちうライキ

つらんえん ちうライキ

ちうライキ

車附 祀えん

○國名一々を

○若公 白石

○他名一々を

の我信信行はるる
種々階層をなす
西人は何をいふか
云々
いふありか
④の上上
いふありか

ニ
花
抑
抑
抑

〇一書を所い三物徳にかゝる
の古々一とる記







箒

箒去

豆席

為字



沈氏所製後國子監

喜依唐玉照耕錄

柘之陰机

又十寸二分
十寸二分

歷代畫史彙傳

吳門周丹泉遺法



永昌

日本阮醉茗製造

一 疾 然 編 陶 治 山
為 者 曠 少 上 廣 野
視 之 以 字 令 何 我
飛 者 也

鶴 峰 詩

鶴 峰 子 七 年 五 月 八 日
一 和 力 十 七 日 一 時 子 以 信 條 上
あり 時 乃 也

酷 合 良

一 情田返園老
漸雪日行司
新巻巻

三つ巻

西三 其九 四巻

中巻 其九 四巻
田中 其九 四巻
和ら 其九 四巻

四巻

其九 四巻
其九 四巻
其九 四巻

田中 其九 四巻
和ら 其九 四巻
其九 四巻

其九 四巻
其九 四巻
其九 四巻

信

信
か
か

信
か
か

信
か
か

又人と車力

女

一
信
か
か

